

小学校 第2学年 単元「どうぶつのひみつをしらべよう」 「ビーバーの大工事～読み取ったビーバーのひみつを活用して、クイズブックを作ろう～」

二つのモデル文を比較しながら、その良さや不十分さを話し合うと、こんなクイズを作ることができました。



こちらには
工事の様子と
ひみつ（つくり）が
はいついてすごく
わかりやすいよ。

こたえ	もんだい
②はん	① 30cmより大きい木をかじって倒す。 ② かなづちを使って倒す。 ③ かなづちを使って倒す。

ビーバーの大工事 ながねとうしゅう

本実践における「活用」の考え方

1 ねらい

ビーバーの工事の様子と、そのための体の秘密（つくり）について読み取ったことを使って、ビーバーの秘密がよく分かるクイズを作ることができる。

2 どのような基礎的・基本的な知識や技能を活用するのか

- ・工事の様子と体の秘密（つくり）を読み分ける読み方
- ・問題と答えに分けて内容を整理する書き方
- ・ビーバーの巣作りやダム造りの様子と、ビーバーの体の秘密（つくり）

3 このような具体的支援が必要です

○クイズの良さや不十分さを比較できるモデルを提示し、思考力を高めます。

A 秘密だけのクイズ（良くない例）

「ビーバーの歯は大工さんの使う何のようでしょう？」

- ①かなづち ②のみ ③のこぎり

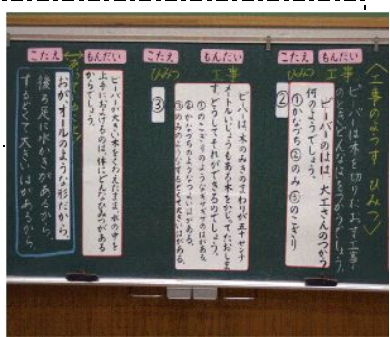
B 秘密と工事の様子が分かるクイズ（良い例）

「ビーバーは、木の幹が 50 cm 以上もある木をかじって倒します。どうしてそんなことができるのでしょうか？」

- ①のこぎりのようなぎざぎざの歯がある
②かなづちのような強い歯がある ③のみのような大きなするどい歯がある

C 問題と答えが対応しないクイズ（良くない例）

「ビーバーは木をくわえたまま川を上手に泳ぐことができます。体にどんな秘密があるでしょう？」
答え：尾がオールのようなだから



実践者からのお薦め

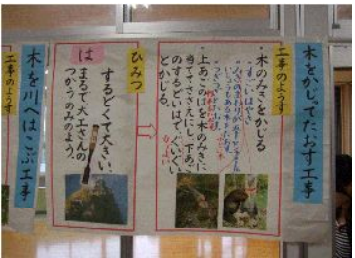
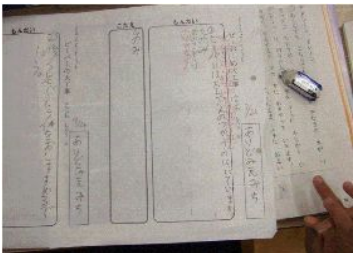


クイズ作りは子どもたちの好奇心を高めますが、読み取ったことがなかなか活用されません。そこで、一度作ったクイズを、ビーバーの行動の様子と体のつくりの視点から再度話し合ってみ直し、ビーバーの秘密が伝わるようにクイズを作り直しました。「もっと他の動物についてもクイズが作りた」と、子どもの読書意欲の高まりにもつながりました。



本単元の指導計画(全18時間)

習得1 (5)	①教材文を通読して学習課題をとらえる。 ②学習課題に沿ってビーバーのダム工事の様子と、体の秘密（つくり）を整理して読み取る。
活用1 (1)	③クイズの作り方を理解し、試しのビーバークイズを作る。
習得2・活用2 (3)	④よりよいクイズの表し方について話し合う。 ⑤クイズの条件に合わせて、分かりやすいクイズに作り直す。
活用3 (2)	⑥ビーバーの巣作りの様子と秘密を読み取り、問いと答えが照合したクイズを作る。
活用4 (7)	⑦他の動物について調べ、クイズブックを作る。

指導の実際(習得2・活用2)

学 習 活 動	具体的な支援
<p>1 前時に自分の作ったクイズの問題点を出し合い、本時のめあてをつかむ。</p> <p>どんなクイズを作ればいいのか話し合っ、自分のクイズを見直そう。</p>	<p>○これまでの学習を自分で振り返ることができるように工事の様子とそのための秘密（体のつくり）を整理して掲示しておく。</p> 
<p>2 工事の様子や秘密が分かるクイズに必要な事柄について話し合い、自分のクイズを見直す。</p> <p>(1) 提示されたクイズA（良くない例）と、B（良い例）の内容や書き方について話し合う。</p>  <p>(2) AとCをどのように修正すればよいか話し合う。</p> <p>(3) 工事の様子と秘密がよく分かるクイズになるように作り直す。</p>	<p>○良さや不十分さを比較できるような、モデルクイズA～Cを提示する。</p>  
<p>3 直したクイズを紹介し、どこをどう変えたのか説明する。</p>	